よさのうみ福祉会 広報誌

福祉よさのうみ

きょうと福祉人材育成認証制度

2018年3月1日 No.102

〈発行〉社会福祉法人 よさのうみ福祉会 〒629-2314 京都府与謝郡与謝野町字岩屋600-6 TEL 050(3532)0601 FAX 0772(43)0606

障害のある人のゆたかな地域生活の実現を! URL http://www.yosanoumi-fukushikai.or.jp

与謝野エリア 成人を祝う会

「新成人、おめでとうございます!」

野田川共同作業所
管理者 杉本 実信

２０１８年１月16日に与謝野エリア「成人を祝う会」が、夢織りの郷ハーモニーホールで行われました。今年与謝野エリア内では、佐々木雅広さん(つむぎ)、石川加奈さん(野田共)、今田雪乃さん(野田共)、田中瑠華さん(花音)、笹岡智子さん(花音)の５名の方を新成人としてお祝いすることができました。

式では、成人者一人ひとりの紹介と合わせて、小さい頃からこれまでの数枚の写真を大きなスクリーンに映したり、親御さんや支援学校でお世話になった先生、各作業班職員からの心温まるお祝いの手紙が読み上げられ、今まで大切に育てこられた親御さんの思いや、学校を卒業し実際に働き始め変わってきたご本人達の様子をうかがい知ることができました。

最後には、新成人のみなさんへ各事業所の仲間たちから温かいメッセージが書かれた色紙と花束が贈られ、一人ひとりから成人になっての抱負を述べていただきました。

支援学校を卒業して早2年が経とうとしています。入所されてきた頃は本当に仕事ができるのか、周りの仲間とうまくやっていけるのか心配されていたと思いますが、今ではそれぞれの事業所の一員となり頑張って仕事をされています。

これからの長い人生いろいろな事があると思いますが、みんなと一緒に乗り越えていきましょう。成人おめでとうございます。

法人全職員研修

「職員セルフチェックアンケート」から日々の支援を振り返る

リスクマネジメント・苦情解決・虐待防止委員会
障害児（者）多機能型 生活支援センターろむ　管理者　山本 優子

2017年12月16日、今年度で5回目になるセルフチェックアンケートの実施結果から見える現状と課題についての研修をしました。その内容をお伝えします。

昨年の研修の振り返りと問題提起

昨年度は、法人事務局からの報告と北川弁護士による虐待防止法の学習を行いました。そのおさらいとして憲法第13条、14条、障害者権利条約、虐待防止法の各一文を読み上げ、人権擁護について厳しく定められていることの確認を行いました。また、虐待の要件となる五つの項目について、今年も会場からの発言で確認をしました。

各条文で定められていること、虐待防止法にあるしてはいけない5つの行為の周知はできている、してはいけないとわかっているのに、なぜ障害者虐待は起こってしまうのでしょうか。

過去の悲惨な戦争で起こった事件（ナチス・ドイツの「T4作戦」）から、人は環境によって思いもよらぬ行動を取ってしまうこと、物事を見つめる感覚の弱さがあることを提起しました。

セルフチェックアンケート結果からの考察

アンケートの設問は20問。自分自身の支援について振り返る項目、事業所内のコミュニケーションについての項目、他の人の支援について考える項目、自分の心身について振り返る項目があります。この5年間、法人全体のアンケート結果は、大きく変化していません。

特徴的な部分は、自分自身の支援は「丁寧に、配慮した支援」をしていると答えた職員が87％以上あるにもかかわらず、他の人の支援を見て少し問題だと感じている職員が54％も出ているところです。このことは自分自身の支援に対するとらえ方と、目に入ってくる他の職員の支援内容のとらえ方に違いがあるのではないか。またその事業所内では普通ととらえている支援が、他事業所の職員から見ると問題があるととらえられる内容であったりするのではないか。利用者の立場に立った視点でとらえていない支援をしているのではないかといったことも考えられます。

「ずっとしてきた」行為が当たり前と思い込んでしまう感覚の弱さが出ているのではないかといったことが考えられます。

よりよい支援を行うために

考察から、個々の職員が「人を大事にする」ことに視点を当てて改めてアンケートの内容を振り返り、各事業所の中で利用者の立場に立った支援について、管理者を中心に、職員全員で話し合いを重ねていくことが必要であり、課題であることを提起しました。

セルフチェックアンケートは、日々の支援を振り返り、事業所が利用者にとってより過ごしやすい場所に、職員にとってより働きがいのある場所になるよう変えていくことにつなげていくものだと考えます。

今回の研修を機に、より素敵な事業所となるよう、日々の支援について丁寧に話し合いを重ねていける職員集団になっていきたいです。

「虐待とその対応について」

リスクマネジメント・苦情解決・虐待防止委員会　委員
伊根の里　管理者　松井 沢美

講　師
市川 知律 氏

リスクマネジメント・苦情解決・虐待防止委員会では、1月20日に三重県高齢者虐待対応専門職チーム委員 市川知律氏を講師にお招きし虐待防止研修会を開催しました。

午前を管理職、午後を一般職の2部構成で行い、管理職は虐待のない職場のあり方・改善について学び、一般職は事例から日々の支援について振り返り、向上を図ることを学びました。

市川氏はこれまで数多くの虐待認定のあった事業所に第3者チームとして入り1年以上かけて改善に取り組んでこられました。その豊富な事例を交え、とてもわかりやすく、かつ虐待に対しては毅然とした態度で教えていただきました。

法人管理職の部

施設従事者による虐待対応のスキル

「虐待」というとテレビや新聞で報道される大きな事件がイメージされやすいが、虐待の「芽」やグレーゾーンを含む小さな案件から対応していくことが大切であること、障害者虐待防止法の目的は「早期発見」と「防止」に取り組むことであるという法のとらえ方から研修は始まりました。

各事業所では、利用者支援時の「ヒヤリハット」の報告を職員間で共有し、原因や背景の検証を行い「不適切な支援」の論議を深めています。が、その前に「これって虐待？」という気づきがあるかどうかが大切です。私たちが日々の業務で「いつもの支援」ととらえていることに虐待の芽がないのか改めて考えさせられました。私たち従事者（職員）には職務上の義務（個別支援計画にもとづいた支援）があることなど養護者（家族等）との違いについても学習しました。

虐待の発生要因として「職員が研修に参加できていないため正しい知識がない」「職員間の意思疎通ができていない」「ヒヤリハットが十分に機能していない」などがあげられました。

実際に虐待が起こった時には正しい原因分析をしなければ虐待の解決、再発防止はできません。法人・事業所管理者としては「虐待防止にはチームで取り組むこと」、「高い支援スキルとモラルを持った職員を養成すること」が今後より一層求められます。

法人一般職の部

虐待とその対応について

午後の部は、実践現場での対応についての内容でした。

5つの虐待（ネグレクト・身体的・経済的・心理的・性的）のうち、たとえば身体的虐待の身体拘束について、3要件と言われるものが満たされても原則としてしてはいけない、他の手立てはないかなど十分な論議が必要とのことです。私たちは人として大切にされる支援とは何か、いろいろな意見を出し合いながら考えていく必要があります。

後半では職員集団として虐待を起こさないためには何を学べばよいのか、何をすることが必要か自分自身で考えることになり、6グループに分かれ意見交流をしました。法人内でも違う事業所の異なる職種の職員と一緒になり、まず自己紹介・職種の説明から始め、新鮮な思いでした。各グループからは、「まず法律を理解したい」「意見の言い合える職員集団をつくるためにはまず懇親会が必要」など様々な意見が出されました。

今もなお、テレビ、新聞では障害者、高齢者、子供への虐待の報道があとを絶ちません。ニュースを聞くたびに胸が痛む思いです。今後も私たちは常に「良い支援とは何か」を考え、利用者・職員が共に安心・安全に働くことができる職場をめざしていきたいと思います。

きょうされん第41回全国大会in京都
仲間の実行委員会始動！

菜の花ホーム　主任　西原　勇介

昨年開催された、きょうされん第40回全国大会in北海道は大成功を収め、今年は京都へ全国大会のバトンが渡されました。第41回全国大会in京都では『ともに生きるともに創る　夢ある未来へ京都から』をテーマに掲げ、「仲間の夢や希望を社会へ発信していく」ことができるように、丹後、中丹、口乙、市内、洛南の5つのブロックとはんなりドリーム（京都支部利用者部会）が集まり、「本部事務局仲間実行委員会」を設置し、取り組みをスタートさせました。

丹後ブロックでは、仲間実行委員会に20の事業所から仲間代表・職員合わせて35名が参加し、全国大会in京都の成功に向け、熱意を持って取り組もうとしています。

会議は仲間中心に運営するため、まずブロック代表・司会・ニュース発行係の役割を決めました。ブロック代表には2人の立候補があり、それぞれの「やりたいこと、がんばりたいこと」等の抱負を発表してもらい、選挙して決定しました。また全国大会in北海道に参加・視察した仲間からの報告などもあり、期待が高まりました。

全国大会のオープニング、大交流会、利用者フォーラムで他府県から集まる人たちに京都らしい企画を楽しんでもらおうと、各事業所の仲間からの色々な意見が集められました。「京都らしい企画」「京都に来て良かったと思えるような企画」にするために、歌や劇、楽器演奏などの出し物や、舞妓さんを呼ぶなどの意見も挙げられました。たくさん集められた面白い企画をブロック会議で意見交換を行い、皆で創り始めた構想が一つになろうとしています。

12月の丹後ブロック会議では仲間からイラストを募集し作成された大会キャラクター『まいこ～』（英語の名前マイケルのように発音してください）や、大会テーマソング『みんないっしょ　ずっといっしょ』も発表されました。テーマソングは今後もみんなで練習をしていこうと思います。

公式キャラクター
「まいこ～」

9月の全国大会が近付くにつれて忙しくなっていきますが、「皆で創り上げた」「皆でやり遂げた」と思えるような達成感と充実感を得られるように、また他府県から京都へ来る方々にも「京都に来てよかった」と思ってもらえるよう、全国大会in京都の成功に向けて仲間と共にドキドキ・わくわくしながら頑張っていこうと思います。皆がつながりを分かち合い、喜び合えるような全国大会になりますように。

「できる！できた！」
せんべい焼きワークショップ

ゆうゆう作業所
主任　品川　稔

作業前の綿密なミーティング

ゆうゆう作業所では、2007年より新たな作業の柱として炭酸せんべい「おおっとろしゃ」や「ココアせんべい」など十数種類のせんべいの製造・販売をおこなっています。

創業時から作業所の「稼ぎ頭」として、そこに関わる利用者もより高度な作業と、それに見合った高い工賃を目指してきました。

しかし、せんべいの製造工程のなかでも「焼き」作業は特に難しく、現在食品班に所属する利用者5名のうち、せんべいを焼くことができるのはAさんたったの1人です。Aさんの作業は、これまでの経験とカンで培われた「熟練の技」ですが、せんべいの生産性の向上、量産による工賃の向上のためにはAさんの技だけには頼っていられません。

手焼きせんべいは「熟練の技」

そこで、丹後保健所による福祉事業所の授産製品のデザイン性を高めたり作業工程を効率化するための取組みである「たんごアート&デザインプロジェクト2017」にくりくりの一員として参加し、「作業工程の分析・見直し」をお願いしました。そして京都工芸繊維大学の桑原教彰教授と、株式会社ブロードリーフ今野加奈子氏からの提案・全面的な協力を得て、作業工程の見直しに取り組むことになりました。

昨年より数回にわたり、実際の作業現場とせんべい製造の各工程をビデオに収め、作業に関わるAさんや支援員からの聞き取りから、ビデオマニュアルを作成していただきました。

今回、そのビデオマニュアルを活用して、今まで「焼き」の作業に関わっていなかった利用者にもワークショップというかたちで、「焼き」作業を体験していただきました。はじめは「心配だ」と言っていたYさんも、いざせんべいを焼いてみると「楽しい、もう一回やってみたい！」と好感触。「仕事」でなく「遊び感覚でやってみる」ことで、「自分もせんべいが焼けた」という自信につながったようでした。

作業工程の見直しはまだ始まったばかりで、期待通りの成果が得られるかは未知数ですが、利用者も支援者も新たな一歩が踏み出せたチャレンジとなりました。

すまいるの嘱託医
西原寛先生
だじゃれで、ほっこり!!

すまいる
支援員　水口　靖恵

西原　寛先生

すまいるから徒歩数分のところで開業されている「西原医院」の西原寛先生に嘱託医をお願いして早くも10年がたとうとしています。毎月第1月曜日、事業所に訪問していただいて利用者の身体の健康、心の健康についての相談をお世話になっています。

毎回、2名～3名の利用者の方が参加して、「寝つきが悪いときがある」「夏は食欲がないです」といった通院するほどでもないけれど気になる体調の変化や、「野球放送を見るのが楽しみです。○○が勝つと気持ちいい」という毎日の過ごし方を話されます。

先生からは楽しいジョークを交えながらのアドバイスをもらっています。職員も一緒に聞いていて声を出し笑ってしまう事も。ほっこりとできる大切な時間です。

こんなエピソードも。ある利用者は、自分の趣味の囲碁・将棋の話をし、「対戦相手が居なくて楽しめない」と相談したことがありました。

数週間後、とある囲碁サークルの方が事業所に訪ねて来られ、サークルに誘ってくださいました。その方に詳細を尋ねると西原先生から「囲碁の対戦相手を探している人がいる」と聞き誘いに来てくださったとのこと。

その後、利用者はサークルに参加し、「自分の好きなことが出来ることは大変うれしい」とよろこんでおられます。「楽しみがある」ということは地域で暮らしていく上で大きな支えになっていると思います。大変感謝しています。

「親の心　子のココロ」

リフレかやの里で働いて

リフレかやの里 利用者家族
水谷 良江

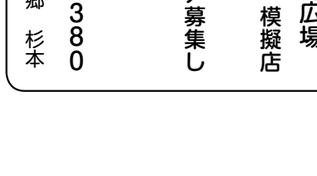
リフレかやの里農産加工所で働き始めてから六年が過ぎました。均にとっては二番目に長く続いております。職員の方々は均に対して時間をかけて、お仕事だけではなく生活面、健康面でも気を配っていただいており感謝いたしております。

加工所では班長をさせていただいているようです。少し短気な所がありトラブルもあるみたいです。人のせいにしないで、仲間の素晴らしい面を見つけて毎日が楽しい職場になるように、今年は頑張ってほしいですね。

お金を使うことも職員さんに教えていただき、今も一週間に千円のお小遣いで計画を立ててやっていますし、一人で暮らして行くようになるために無駄使いをせず、仕事で残業があれば喜んでさせてもらって、貯金を増やすように努力しています。

毎朝、「おはよう」「行ってきます」帰ってきたら「ただいま」と元気のよい挨拶ができて、家族は常に明るい方向に向かっています。雪が降ると玄関前の雪かきや休日には食器洗いをしてくれるやさしい面もあり助かっています。

お正月休みには、家族で初めて九州旅行に行けたのも、均が頑張っている姿を、兄が認めてくれたおかげです。ここまで導いてくださった職員の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。今後ともよろしくお願いいたします。



職員の腰痛予防対策をすすめよう！

職員健康委員会による腰痛検査の実施

職員健康委員会 委員長
みやづ作業所 管理者 佐野 恵理子

職員がこころも身体も健康でいることは働き続けるために不可欠なことです。職員健康委員会では一昨年より職員の身体とこころの健康増進を図るための取り組みをすすめています。その一つとして松本リハビリ研究所様に依頼し、腰痛検査を実施しました。昨年度、管理職に実施した健康面に係る職場環境アンケートで改善が必要な課題としてあげられていた腰痛予防対策の一環です。

法人全職員292名に腰痛の有無や腰痛の状態などについての腰痛調査アンケートを実施し、その結果から職員31名に1月19日、22日、26日の3日間で個別検査を実施しました。松本リハビリ研究所様により、腰痛の状況などの問診後、身体のバランスや柔軟性、腹筋や姿勢などを診る8項目の検査を一人10分程度行っていただきました。

この検査結果は後日、受診した職員に返します。検査結果から自分の身体の状態を掴み、腰痛をおこしにくい日常動作などを意識し、腰痛予防につなげてもらえればと考えています。

「ヨロヨロしないでくださいョ」

「ギューッ」
「イ、イテテ…」

夢いっぱいフリーマーケットのお知らせ

☆日　時　4月15日（日）
雨天時は、4月22日(日)に順延
☆会　場　野田川わーくぱる横多目的広場

・掘り出し物がどっさり、模擬店もあります。
・出店者及びボランティア募集しています。

★連絡先　夢織りの郷
☎0772・43・0380
担当　夢織の郷　杉本

笑顔をもらい笑顔をかえせる関係でずーっといたいなぁ

遠くにいても仲間だよ

主任　品川　恵子

今は携帯という本当に便利な物があり、現在愛媛県の入所施設にいる元仲間の人と毎月連絡を取り合っています。「どうしてる？楽しい事ある？」と元気な声を聞かせてもらい、昔話も含め笑いがこぼれる会話に安心を得て「また来月に」と電話を切ります。遠くにいて笑顔は見られないけれど、声のトーンで安心でき、お互いの存在を感じあえる関係になっていることに感謝しています。

いつまでも元気で過ごされることを遠くから願いながら、来月の電話をどちらが先に掛けるか楽しみにしているのです。

次回は
与謝野町障害者相談支援事業所 結
主任　坂根 由美子です。

リレー随想

すまいる

我が家は連続テレビ小説にはまっていて、現在放映中の朝ドラ「わろてんか」を毎日録画し、夜に鑑賞する日々を送っています。「笑いが一番のごちそうや」「笑いが人を癒す薬です」と笑いの大切さを教えてくれるのですが、毎日の中でどれだけ笑顔でいられているのか。しんどい時など笑顔を忘れている自分の不甲斐なさを痛感しながら反省して見ています。

そんな日々の中、仕事場に来ると仲間が「おはよー元気？」と声をかけてくれ、にこっと笑ってくれるそのしぐさが、私のこころに元気を与えてくれます。私も、今日もまた頑張ろうと思わせてもらっているのです。これが私の原点。

だから、私も声を掛ける時は笑顔を心がけ、相手が笑顔になったり元気になれるような関係をずーっと大切にしていきたいと思っています。

ご寄付御礼

みなさまからのご寄付、誠にありがとうございます。
2017年12月18日～2018年2月3日
（順不同・敬称略）

古川俊光
吉田悦男
大泉邦暉
小谷美和子
高岡弘安
白須宗明
山本　優
三宅由希也
西原新介
岡田　茂
宇治川耕平
戸田幸弘
田中喜代子
霜尾充範
宮川　剛
荻野真作
柴山　守
上田常男
椿　京子
長島晴美
小牧扶紗子
寺阪久恵
山口高志
池田　悟
振角千代子
日本キリスト教団丹後宮津教会
カトリック丹後教会宮津教会堂
宮津・伊根地域の作業所を支える会
峰山共同作業所 みねやま作業所
ゆうゆう作業所 ろむを支える会

その他匿名でもたくさんのご寄付をいただいております。

畑中順二
田宮達惠
田中秀和
井上恵美子
小牧みゆき
西川悟子
櫻井健治
倉　靖司
楠田　均
日下部みはる
山田登志子
岩西一男
藤原道子
滝　正導
滝やよゐ
西口愛子
玉田照美
入垣富徳
松田由美
田中祇子
白須啓子
山添千秋
西原勇介
巽　ひろみ

編集後記

今号が皆さんのお目にかかるころには少し寒さもやわらいでいるのでしょうか？▼この編集後記を書いている今は1月中旬、まだ冬真っ盛りで春は遠いなぁ、と感じます。私にとっては丹後に来て迎える3回目の冬。雪は降れども積もることはほとんどない土地で育った私にとって、たくさんの雪が降り積もる丹後での冬にはまだまだ驚くことがたくさんあります。▼はじめての雪かきで、凍った雪の重さに、また、はじめての雪道運転で凍った道の脅威に驚きました。急に外が静かで明るくなったなぁ、なんて感じていたらあっという間に駐車場が雪まみれに！「積もる雪はこんな風に“しんしん”と降るんだよ」と教えていただきました。雪国で暮らす大変さが身に染みました。けれど、降り積もった雪に太陽の光が注ぐ景色の美しさや、雪解けの後の春の訪れを待つワクワクとした気持ちは、丹後に来なければ知ることは出来なかったな、と思います。▼たくさんの驚きがある冬も楽しいですが、やっぱり暖かい春が待ち遠しい！今号の発行時には暖かい春が訪れていますように。（か）

新成人から一言

よさのうみ福祉会利用者全体では、今年12名の新成人がおられます。今回はその中から代表で6名の方に出ていただきました。

「お母さんのために仕事をがんばります」

すまいる　瀬戸野　祐太さん

瀬戸野さんは現在一般就労に向けて、トライアル雇用先で仕事を頑張っておられます。「成人を祝う会」ではお母さん、トライアル雇用先の専務さんからのあたたかいメッセージが披露されたあと祐太さんは力強く決意表明され会場は拍手喝采でした。

「ラインしたいな」

野田川共同作業所　石川　加奈さん

高校卒業後、野田川共同作業所を利用されるようになりました。

周りの利用者さんにも気配りのできる笑顔の素敵な女性になりました。

「携帯を持って離れているお母さんと話して友達ともラインしたいです。」

「一人でどこかへ行きたいです」

野田川共同作業所　今田　雪乃さん

高校卒業後、花音の仕事を経て、1年前に野田川共同作業所を利用されることになりました。スマイル班に所属して一生懸命作業をしています。

「いつもお母さんが一緒だで、一人でどこかへ行きたいです。」

「オシャレをして大人の感じで」

ワークセンター花音　田中　瑠華さん

20歳になったので、おしゃれをして大人な感じになりたいです。貯金をして、好きなものを買いたいです。

私はあいさつをするとき声が小さくなるので、大きな声で元気よくあいさつできるようになりたいです。喫茶の仕事をてきぱきできるように頑張ります。

「大人の女性になりたいです！」

ワークセンター花音　笹岡　智子さん

花音で厨房の仕事をしています。野菜を切ったり計量の仕事をがんばっています。

20歳になって、まだ子どもみたいだけど、これからは仕事をがんばっていきたいです。もっと大人の女性になりたいです。

「夢はジャニーズ!!」

峰山共同作業所　小國　浩二さん

木工班で、研磨作業を日々頑張っています。今年からストックヤードでの資源回収作業にも挑戦。来られる方に笑顔で接する事を大切にしています。